

～卒業式まであと5日、終業式まであと19日～

生活指導だより  
第101号

そろえる

溝辺中学校  
令和6年3月7日発行

## ★みんなの力で「感動いっぱい卒業式」を迎えたい★



三年生にとっては、卒業式まであと5日、三年生へ向けて最後の「そろえる」は、相田みつをさんの「一生青春・一生感動」の話、テーマは『心』です。

「あなたにとって、中学校三年間で一番の思い出とは何ですか。」と言われたら、あなたは、その思い出を詳しく話すことができますか。

そして、十年後、二十年後、中学時代の思い出を懐かしく語るができるでしょうか。思い出の形にはいろいろありますが、ただ面白かった、楽しかっただけでは、いつまでも心に残る思い出とはいえません。

今、みなさんが卒業を迎え、心からよかったねと語り合えること、それは自分が感動したことではないでしょうか。心が揺さぶられ、ジーンときたり、涙を流したりしたこと。また一生懸命がんばり、やり抜いたこと、みんなで協力し、成功させたことなど……。

「感動」は、他から強制されるものでも、命令されるものでもありません。今を大事に、いのちある限りは、今、ここを自分のががんばるところとして、生き生きはつらつと、いつまでも感動し、涙できる人生をおくってください。



～ 一生青春・一生感動 ～

## ★「ありがとう」の反対語は？・・・「○○○○○○」★

「『暗い』の反対語は？」・・・「明るい」

「『速い』の反対語は？」・・・「『遅い』じゃ、『ありがとう』の反対語は？」

「馬鹿野郎！うざい！ごめんなさい！どういたしまして！」・・・など出た。

「答えは・・・『あたりまえ（当たり前）』です。」



ありがとうの語源は『有り難し』。つまり、『ある』ことが『難しい』ということなんだ。あるということが、なかなかないことなのに「ある」。それは幸せなことだ。だから、あるのが当然、と思っていることは『有り難し』の正反対。『ありがとう』の反対は『当たり前』ということなんだ。親が食事を作ってくれるのは「当たり前」と思っている人は「ありがとう」という気持ちがないし、自分が困っている時に誰かが助けてくれたのは「当たり前」と思っていたら「ありがとう」は言えないよね。でも考えてみたら、そのどちらだって当たり前じゃない。そういう事は身のまわりいっぱいあるはず。もう一度「有り難いことだ」という目で見てみよう。「有り難い」ことに気づけば、自然に感謝の念が湧いてくることが多いはずだ。

